



猫、 だって。





ドイツに学ぶ人と動物の幸せな関係——

だって猫も私たちの大切な家族

9月20日から26日は動物愛護週間です。人と動物がより幸せに共生できる社会にするのが目的ですが、動物保護の先進国・ドイツではどんな取り組みがされているのでしょうか。猫が大好きというドイツ出身のイエンスさんと、妻の知里さんに日本とドイツの違いや猫との向き合い方などを教えてもらいました。



イエンス・デルクセンさん
知里・デルクセンさん
=上町=

人と動物の理想的な共生の形

主人がドイツ出身で、彼の故郷のティアハイムを見学したことがあります。ドイツは動物保護の先進国で、ティアハイムはそれを代表する施設です。日本語に訳すと「動物の家」。どの町にもあり、犬猫だけでなくウサギや鳥、馬、羊などの行き場を失った動物たちが集まります。運営のほとんどは寄付や遺産で賄われているそうです。

生き物の販売は禁止されているドイツではペットショップがないため、ペットを迎えたい家族はティアハイムに譲渡してもらいます。3時間の見学中に、何組もの家族が訪れていました。保護動物の譲渡率は9割以上。もらい手が見つからなくても、広々とした施設で終生暮らすことができます。

生活の中にティアハイムや保護活動が根付いたドイツは、日本と

は全然違うと感じました。人間と動物の関係は、ペットというよりは一緒に生きる大切な家族。理想の形でうらやましいです。内子町はローテンブルク市と姉妹都市です。仕方があることを、もっと知って、もらって、町内の動物保護活動に反映してほしいです。

フミちゃんが家族になった日

私たちには、5匹の家族がいます。どの子も元々は保護猫や野良猫ですが、その中の紅一点、フミちゃんに出会ったのは、私たちが2013（平成25年）に内子町に移住してすぐのことでした。

今は八日市・護国地区の入口の方でドイツ料理屋を営んでいます。以前の店は本芳我邸の並びにありました。閉店が少し遅くなった晩、店を閉めようと表に

出たら、1匹の猫がダーツと駆け寄って来ました。手足にけがをしていて、わき腹の骨が浮き上がるほど痩せた三毛猫。ほんとに「助けてー」って感じでした。何とか助けようと餌をあげて治療をし、新しい飼い主も探しましたが、なかなか見つからず……。その頃には、たまらなくいとおしくなっていて、結局は家族として迎え入れることになったのです。

衝撃的な出会いでしたが、この子の一生を引き受けられるかどうか慎重に考えました。皆さんもペットを迎えるときは飼い主の責任を知り、果たせるかどうかを十分検討してくださいね。

最期までずっと家族

ティアハイムに感動し、私たちも預かりボランティアなどの保護活動をするようになりました。今は3匹の子猫を預かり、飼い主が見つかるまでのお世話をしています。

猫たちが膝の上のると「トク、トク、トク」と鼓動を感じます。長く一緒にいるとそれぞれ性格が違ふし、感情があることも分かります。私たちの5匹の家族と同じように、この子たちが最期まで幸せに生きられる家族が見つかることを願っています。

猫を飼う前にもう一度考えて、飼い主としての責任

\point/

1 屋内飼育

猫は環境を整えたら、室内でもストレスなく安心して暮らせます。交通事故や伝染病などの危険からも守れます。マダニとかも連れて帰らないので、室内飼いに努めましょう

\point/

2 不妊去勢手術

「捨て猫」は犯罪行為になります。不幸な子猫を生まないためにも、オスもメスも手術を受けさせましょう。手術をするとオス同士の争いやマーキング行為が減るそうです

\point/

3 身元表示

屋内飼育の場合でも、災害や脱走に備えて「迷子札」や「マイクロチップ」などを付けて、身元が分かるようにしましょう。飼い猫ということや連絡先が分かれば家に帰れます

\point/

4 飼うなら一生

家族の一員として亡くなるその日まで愛情を持って飼育することはもちろん、習性を理解し、適正な飼育に努めましょう

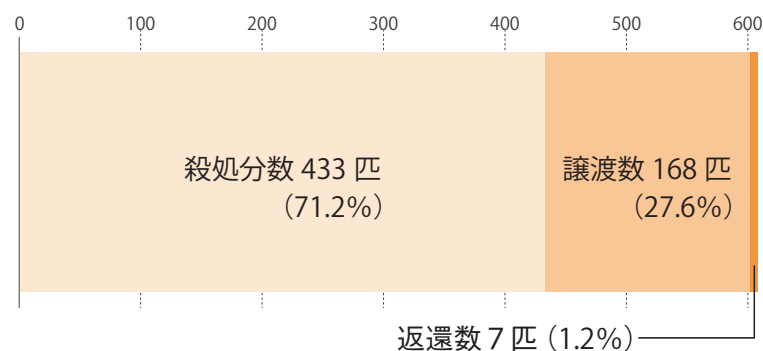


ドイツのティアハイムの様子

【写真提供：イエンス・デルクセンさん】

1_ティアハイムの入口にある看板 2_譲渡先を探している犬や猫の紹介 3_たくさんの保護猫が施設内の部屋で自由に過ごしている 4_動物たちの世話をするスタッフ。ベルリンのティアハイムには100人以上のスタッフのほか、獣医師やトレーナーが常駐しているそう

令和3年度・愛媛県の猫の処分数（松山市は除く）



※「令和3年度愛媛県動物愛護センター業務資料」を参考にしています。

愛媛県の猫の処分数608匹の内訳です。譲渡の内139匹は子猫でした。殺処分数は10年前はもちろん、令和2年度と比べても、かなり減っています。皆さんの理解と協力で少しずつ成果が出ています。



愛媛の現状

私は犬も猫も大好きです。このセンターで働く皆さんも動物が好き——。そして、ここに連れて来られる犬や猫に罪はありません。もちろん殺処分もしたくないです。でも感染症などに

令和2年度、愛媛県動物愛護センター（以下、センター）の猫殺処分数は834匹。全国でワースト3位でした。10年前の約4000匹からは減りましたが、依然として多いのが現状です。日々、命と向き合いながら施設への収容数を減らすと、啓発活動に奮闘する職員の思いに迫りました。

猫だって、生まれたら生きたい

動物愛護センターからのメッセージ



愛媛県動物愛護センター
担当係長 中井麻記子さん
＝松山市＝

簡単なことではありません。愛媛県では殺処分せざるを得ない現状があるのです。

センターの取り組み

私たちは今、救える命を一つでも多く救いながら、ここに連れて来られる子たちを減らす取り組みを進めています。その一つが犬猫の譲渡事業。適正のある犬や猫を、新しい飼い主へ譲る事業です。コロナ禍で大きな譲渡会は開けませんでしたが、代わりに1組ずつ時間をかけて相性のいい子を探す、マッチング譲渡を行っています。

実は猫の譲渡は難しく、令和2年度は収容数964匹に対して譲渡数が99匹でした。これは条件を「家飼いすること」など、ちゃんと飼える人に譲渡していることが一つの要因です。「欲しい人に譲渡すればいい」と思うかもしれませんが、最後まで責任をもって飼えない人に譲渡してしまうと、施設に戻されることや、脱走したり捨てられたりした猫が子猫を生むことで、結局収容数は増えてしまいます。譲渡事業を通じて、皆さんに犬や猫の正しい知識を持ってもらうことも大切なのです。

かかっていたり、体が弱っていたりして回復が難しい場合や、人間に対して攻撃的な気性で譲渡が困難な場合もあります。年間1000匹もの犬猫が収容されるため、譲渡先が見つからない動物すべてを保護するのは簡

命のメッセージ

よく話して、よく考えてもらって、それでも大丈夫な人に譲渡すること——。時間はかかりますが地道な愛護活動が続けることで、地域の模範となる飼い主が増えています。

責任感のある飼い主さんの姿、その家族となつて暮らす犬や猫たちの幸せな姿がメッセージとなり、多くの人に届いたらいいなと思います。その陰には生きたらなかった命があります。猫だって生まれたら生きたい。生まれてくる命への責任は、私たち人間にあるのです。

収容数を減らす先に——

10年前、収容施設には犬や猫があふれていましたが、今はかなり減っています。飼い主さんの意識が変わり、知識を広めてくれていることが、人と動物のいい共生の仕方につながっているのだと思います。

動物との正しい接し方の知識、小さな命や弱い者への思いやりの気持ちをみんなが持てば、センターへの収容数は必ず減ります。その先に、犬猫を殺処分しなくてもよい未来があると、私たちは信じています。



1_保護するため、いろいろな設備がある動物愛護センター。写真は譲渡犬などがいる「ふれあい動物舎」 2_かわいい保護猫。新しい家族を待っている 3_動物愛護の啓発をするためモルモットや亀なども飼育している 4_掲示板には譲渡されて幸せそうな犬たちの姿があった 5_展示や動物愛護教室などで地道な啓発活動が続く



センター内にある「やすらぎ」と刻まれた動物慰霊碑。人間のエゴで消えていった多くの命があることを忘れてはならない



愛媛県内から集まった犬猫を収容、処分する施設。10年前の2012年の処分数は犬が1,196匹、猫が3,987匹だった



動物愛護センターに来て幸せになれる猫ばかりじゃないよ

野良猫を地域猫に――

望まれない猫の出産をなくし、飼い主のいない猫を増やさないために、地域猫活動の柱となるのがTNRです。

TNRとは

T

Trap
捕まえる

猫がけがをしないように気を付けて捕獲機で捕まえます。

N

Neuter
不妊去勢手術

メスは不妊、オスは去勢の手術をします。全身麻酔の間に、手術済みの証の耳先カットや、ワクチン接種、ノミ除薬の投与などをします。

R

Return
もど返す

一晩ゆっくり休ませて元気になってから、いた場所に返します。

TNR活動を支援します

町では飼い主のいない猫への不妊去勢手術に補助金を交付しています。

●対象 内子町で保護された飼い主のいない猫

●補助限度額

▷オス 4,000円

▷メス 8,000円

※申し込みを希望する場合は、事前にご相談ください。保護用のおりも貸し出します。

【問い合わせ】

保健福祉課 福祉庶務係

☎0893(44)6154



1_地域猫の餌場は和田さんの家や集会所などの3箇所。夕方になると猫が集まってきた。現在、五郎荒田地区の地域猫は15匹だそうです 2_最近、地域に流れ着いた猫・ミケランジェロ。先住の猫にいじめられるので、夜はケージに入れている 3_飼い猫でも野良猫でもない地域猫。「コシロだけは触らせてくれる」と、うれしそうに話す和田さん

さくら耳は地域猫なんだって

地域猫とは住民の皆さんの理解と協力を得ている、特定の飼い主がいない猫をいいます。地域猫活動では餌やりやトイレのルールを決めて、生活環境の悪化を防止しながら適切に管理。不妊去勢手術をして数を増やさず、その猫が一代限りの命を全うするのを見守ります。この活動の先進地が大洲市にあると知り、「五郎荒田地域猫の会」の代表、和田仁美さんに話を伺いました。

地域猫活動を通じて感じたつながり 五郎荒田地区は、すてきな地域です



五郎荒田地域猫の会
代表 和田仁美さん
＝大洲市＝

地域猫活動を始めたきっかけ

私が住む五郎荒田地区は15軒くらいの集落で、2019年に地域猫活動を始めました。

元々、野良猫の多い地域で、おなかをすかせた姿がかわいそうと、独居のおじいさんが猫に餌やりをしていました。私も猫好きなので、「よく面倒を見てくれていて」という思いで感謝していました。冬場には毛布を置くなど、本当に優しいです。でも、そのおじいさんが入院したことがあって、「彼がいなくなったら猫たちはどうなるんやろ」と心配していました。＼

始めるなら、なるべく早く

活動を始めた当時、この地域には20匹以上の野良猫がいました。地域の皆さんもおじいさんが猫の世話をしていたのを知っていたので、地域猫活動のお願いをしたときは、特に大きな問題はありませんでした。すぐに地区内の全戸から同意を得て活動を開始。住宅街

ではトイレのことが課題になりましたが、幸いこの地域は山や畑ばかり。道路上にふんがあれば、のければいいだけのこと――。皆さん協力的にやってくれます。

大変なのは不妊去勢手術です。県の獣医師会の助成で7匹くらいは無料で手術できましたが、あとはお金が必要です。メスだと1匹2〜3万円かかるので、募金活動をして資金を集めました。猫が増え過ぎてからでは手に負えなくなるので、早めの対策が大切です。

誰かがしなければ

「かわいそうな猫たちをほっとけない」という気持ちは大切です。そんな優しい人が多い方が、いい

世の中だと思っています。たとえ餌をあげなくても、猫は自分たちで餌場を探して、どこかで増えていくだけです。誰かが何とかしないと、見えないところで問題が大きくなるだけだと思います。

大切なのは増やさないようにすること。餌をあげるなら手術をしてからです。外飼いの猫の手術をすることや、子猫を捨てないようにはすることなど、飼い主の責任もあります。私たちの地域にも猫が嫌いな人はいますが、きちんと管理されて地域が良くなるなら、方向性は同じはず。猫を厄介者ではなく、一緒に地域で暮らすものとして、天寿を全うするまで見守ってあげてほしいです。



【写真提供：中野忍^{しのぶ}さん】

「たま」は、まだ目も開いてない生まれたての状態で親とはぐれてしまったところを、中野さんに助けられました。家族に迎えられ、大切に育ててもらった恩返しで、番犬のように家族を守ってくれているそうです。クリクリのかわいらしい目で、郷ノ谷川のしだれ桜を見つめています。

花も木も
町並みも、
猫だって
きれいな町へ

「猫活」から命と環境を考える

地域猫活動や預かりボランティア、里親探しなど、猫に関わるさまざまな活動をしている塩川まゆみさん。それらの活動を「猫活」と自称し、多くの課題に取り組んでいます。身近で小さな命の在り方について、みんなで考えることが大切で、そこにある課題は多くの社会問題と地続きなのではないか——。猫活から伝えたいという塩川さんの思いを聞きました。



(元) 内の子広場地域猫の会
代表 塩川まゆみさん
= 内子13 =

突然始まった私の「猫活」

私が「猫活」を始めたのは、娘が内の子広場でボロボロの1匹の子猫を見つけたことがきっかけでした。餌をあげようとしたら、わらわらと湧いてきた猫、猫、猫……。どの猫もひどい状態で、何とか助けてあげたいという気持ちになりました。どうすればいいか調べるうちに地域猫活動のことを知り、その活動に関わる県内各地の人たちに力になってもらいました。

長い活動になると覚悟を決めて始めましたが、すぐに新しい飼い主や預かりボランティアの人が見つかりました。幸いにも半年で全ての猫の譲渡先が決まり、地域猫の会は役割を終えました。活動を知った人から相談されることが増え、今でも猫活は続いています。

多頭飼育崩壊の問題

町内でも「多頭飼育崩壊」の相談

を受けます。多頭飼育崩壊とは何かの理由でペットが増え、飼い主が適正に飼育できる数を超えた状況をいいます。周辺の生活環境を損ねるので身近で大きな社会問題です。

野良猫の場合、餌を与え続けることで起こることがあります。猫は繁殖力が強く、1組が1年で20匹以上になることも……。不妊去勢手術で防げるので、餌やりをするなら最初が肝心ですね。地域とのトラブルを避けるためには、ふんの始末をきちんとすること。餌やりの仕方も大事です。置き餌は別の猫もすみ着くので、時間を決めて食べ終わったらすぐに片付けるようにしましょう。

みんなが幸せになれる地域へ

猫活で改めて感じるのは命の尊さ。わが家の子どもたちも、そのことを一緒に学んでいます。「猫を助けたい」という娘の優しさに応えら



右_塩川さん宅の近所にある内の子広場に猫がいたことが「猫活」のきっかけとなった 上_餌の時間に集まる猫。最初は20匹以上いたとのこと



れたことは、親としてうれしく思います。人の情けも身に染みしました。ありがたいことです。内の子広場の活動は半年間でしたが、多くの人が積極的に関わってくれて、公園周辺の環境がよくなりました。小学生までも自分ができることをしてくれて、みんなが思いやりを持って行動する素晴らしさを感じています。

いい地域づくりとは花や建物がきれいなだけでなく、そこで暮らす全ての生き物が幸せになれる環境をつくることだと私は思います。猫活がその足がかりとなり、みんなの生きやすい環境が広がれば、とても幸せです。